

福井市足羽山におけるムネアカハラビロカマキリの記録

梅村 信哉*・小寺 由馬

A record of *Hierodula* sp. at Mt. Asuwa, Fukui City, Fukui Prefecture

Shinya UMEMURA* & Yuma ODERA

(要旨) 2023年7月22日に福井市足羽山において外来種であるムネアカハラビロカマキリの幼虫が採集された。県内では敦賀市中池見に次いで2例目の記録となる。本報告により、足羽山でこれまでに確認されているカマキリ類は7種になった。

キーワード：ムネアカハラビロカマキリ，外来種，足羽山，福井市

ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp. は中国大陸が原産と考えられている大型の外来種のカマキリである。国内では藤野ほか (2010) によって福井県敦賀市中池見において初記録されて以降、各地で記録され、これまでに福井県のほかに新潟県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、愛知県、岐阜県、京都府、佐賀県、大分県、宮崎県などで確認されている (中峰, 2016; 田留ほか, 2017)。

敦賀市中池見での採集記録以降、福井県内において本種の記録はなかったが、福井市足羽山において本種の幼虫が採集されたので、下記の通り報告する。

ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp.

福井市足羽山, 1♀, 22-VII-2023, 小寺由馬採集。

2023年7月22日の12時頃、第二著者の小寺が足羽山の三段広場周辺に生育するアジサイ類の葉上でカマキリ類の幼虫を採集した (図1)。第一著者の梅村が確認したところ、ムネアカハラビロカマキリの幼虫であったため譲り受け、福井市自然史博物館においてプラスチックケース (W150×D80×T100mm) で飼育した。8月30日に成虫になったのが確認されたため (図2)、冷凍庫に入れて殺傷し、脱皮殻とともに乾燥標本として当館に収蔵した (FCMNH-JI34942, 34943 図3)。

足羽山ではこれまでにヒメカマキリ *Acromantis japonica* Westwood, ヒナカマキリ *Amantis nawai* (Shiraki), コカマキリ *Statilia maculata* (Thunberg), オオカマキリ *Tenodera sinensis* Saussure, カマキリ *T. angustipennis* Saussure, ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Audinet-Serville) の6種が記録されていたが (梅村, 2023), 本報告により足羽山で確認されているカマキリ類は7種になった。

ムネアカハラビロカマキリは在来種のハラビロカマキリに対して顕著な侵略性を示し、ムネアカハラビロカマキリが侵入した地域ではハラビロカマキリの生息が確認されなくなる置き換わり現象が各地で報告されている (間野・宇野, 2014; 松本ほか, 2016; 苅部・加賀, 2017; 伊與田ほか, 2022)。第一著者の梅村は、2023年7月22日以降、足羽山においてムネアカハラビロカマキリの生息状況を注視しているが、今のところ追加個体は得られておらず、ハラビロカマキリがよく観察されることから、ムネアカハラビロカマキリの侵入初期段階であると考えられる。しかし、ムネアカハラビロカマキリが侵入した場合、ハラビロカマキリとの置き換わりが数年で起こることが報告されているため (間野・宇野, 2015), 足羽山においても両種の生息状況を今後注視していく必要がある。

本種は、中国から輸入される竹箒に付着した卵鞘によって侵入していると推測されており、実際に中国から輸入された竹箒に付着した卵鞘が孵化する能力を持つことが示されている (櫻井ほか, 2018)。足羽山の稜線部では、公園管理のための清掃などで竹箒が使用されており、竹箒に付着した卵鞘によってムネアカハラビロカマキリが持ち込まれた可能性がある。しかし、県内のどこかに定着地があり、そこから自動車等に付着して足羽山に移入した可能性も否定できない。

日本に侵入してからのムネアカハラビロカマキリの自力移動による分布拡大速度については、東京都八王子市西部における初記録からの年数と分布範囲の関係から、年間100m程度と推定されている (松本, 2018)。しかし、本種が県内で初めて確認されてからすでに10年以上が経過しており、県内初確認地の敦賀市中池見湿地では、ムネアカハラビロカマキリがその後も継続的に観察されていることから (藤野勇馬 私

*福井市自然史博物館 〒918-8006 福井市足羽上町147

*Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui City, Fukui 918-8006, Japan

信), 当地には定着していると考えてよいだろう。

県内におけるムネアカハラビロカマキリの分布状況についての知見は依然少ないが, これは調査不足によるものと思われる。ハラビロカマキリ属の広域における分布状況について, 自動車を用いて轢死体や道路上で静止しているカマキリ類を発見する手法での調査報告がある(苅部・加賀, 2017)。また, 市民参加による調査事例も報告されており(伊與田ほか, 2022), 今後, 福井県内においてもこれらの手法を用いてムネアカハラビロカマキリの生息状況を把握していく必要がある。

本稿を取りまとめるにあたり, 文献をご恵与いただくとともに, 敦賀市中池見におけるムネアカハラビロカマキリの生息状況について情報をいただいた藤野勇馬氏に心より御礼申し上げる。

引用文献

- 藤野勇馬・岩崎 拓・市川顕彦, 2010, 福井県敦賀市でハラビロカマキリ属不明種の成虫と卵囊を採集。昆虫と自然, 43(5), 32-34.
- 伊與田翔太・根本宗一郎・高坂春香・幸村帆夏・佐橋拓弥・岸村晋作・犬飼瑠那・杉浦宏亮・長坂優斗・白石友也・立脇隆文, 2022, 愛知県岡崎市におけるムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリの分布状況。豊橋市自然史博物館研報, (32), 1-7.
- 苅部治紀・加賀玲子, 2017, 神奈川県西部における外来種ムネアカハラビロカマキリの拡散状況(おもに2016年度夏季―秋季の調査から)。神奈川県立博物館研究報告 自然科学, (46), 71-77.
- 間野隆裕・宇野総一, 2014, 豊田市におけるハラビロカマキリとムネアカハラビロカマキリの分布動態と形態について。矢作川研究, (18), 41-48.
- 間野隆裕・宇野総一, 2015, 矢作川流域におけるムネアカハラビロカマキリの分布拡大。矢作川研究, (19), 107-112.
- 松本和馬, 2018, 八王子市西部におけるムネアカハラビロカマキリの分布状況。昆虫と自然, 53(11), 8-11.
- 松本和馬・佐藤理絵・井上大成, 2016, 東京都八王子市の森林総合研究所多摩森林科学園におけるムネアカハラビロカマキリの侵入定着とハラビロカマキリの衰退。環動昆, 27(2), 53-56.
- 中峰 空, 2016, カマキリ目 Mantodea。町田龍一郎監修・日本直翅類学会編, 日本産直翅類標準図鑑, 学研プラス, 198-205.
- 櫻井 博・苅部治紀・加賀玲子, 2018, ムネアカハラビロカマキリの非意図的導入事例―中国から輸入された竹箒に付着した卵鞘―。神奈川県立博物館研究報告 自然科学, (47), 67-71.
- 田留健介・早乙女将史・柳沼 薫, 2017, 埼玉県内におけるムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp. の初記録。埼玉県立自然の博物館研究報告, (11), 57-58.
- 梅村信哉, 2023, 足羽山の昆虫観察ガイドブック。福井市自然史博物館, 44p.



図1. 足羽山で見つかったムネアカハラビロカマキリの幼虫(福井市足羽山, 2023-VII-22, 小寺由馬採集・梅村信哉撮影)



図2. 飼育により羽化したムネアカハラビロカマキリの成虫(2023-IX-2, 梅村信哉撮影)



図3. 飼育により羽化したムネアカハラビロカマキリ成虫(左)と脱皮殻(右)の標本(福井市自然史博物館所蔵: FCMNH-JI34942, 34943)

A record of *Hierodula* sp. at Mt. Asuwa, Fukui City, Fukui Prefecture

Shinya UMEMURA* & Yuma ODERA

Abstract

A larva of *Hierodula* sp. was collected at Mt. Asuwa, Fukui City, Fukui Prefecture on 22nd July, 2023. By adding to this record, there have been 7 species of mantis recorded at Mt. Asuwa so far.

Key words

Hierodula sp., alien species, Mt. Asuwa, Fukui City